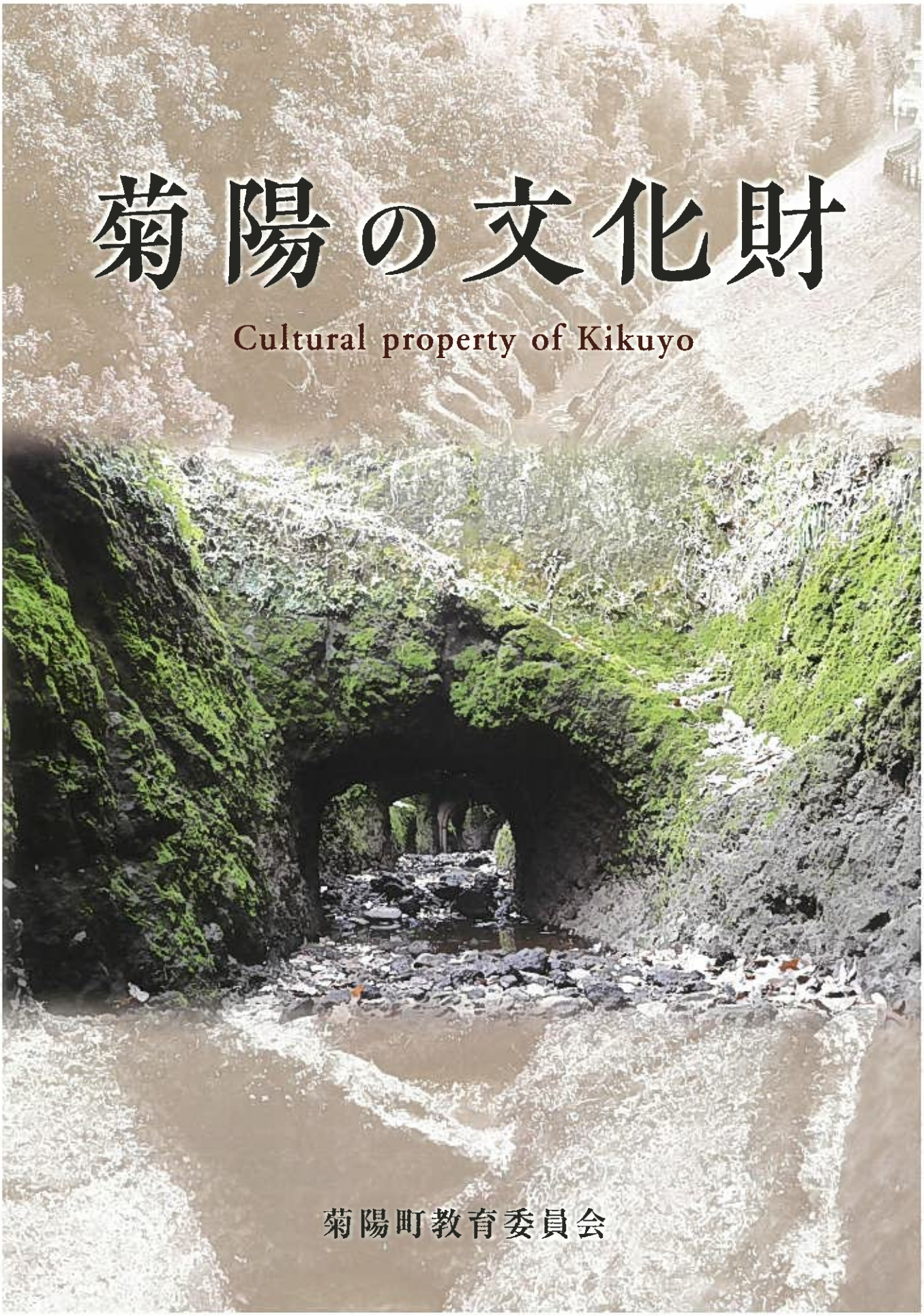
菊陽の文化財

Cultural property of Kikuyo



菊陽町教育委員会

発刊にあたり

菊陽町は熊本県の北部に位置し、熊本市の北東部に隣接しています。また、阿蘇を源とする白川の恵みを受け、古くから豊かな穀倉地帯として栄えてきました。

その痕跡として、先人たちによりさまざまな文化遺産が残されています。しかし、近年の人口増加、農地整備、様々な開発による地理的変化等によって、その地域の文化や歴史的景観が失われつつあるのも事実です。

私たちは、これらの貴重な文化財を後世に伝えていくとともに保存・保護に努めていかなければなりません。

この冊子が郷土の文化財の保存・保護についての理解と認識を深め、皆様に活用していただければ幸いに存じます。最後に、発刊にあたり、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和２年３月

菊陽町教育委員会
教育長　上川幸俊

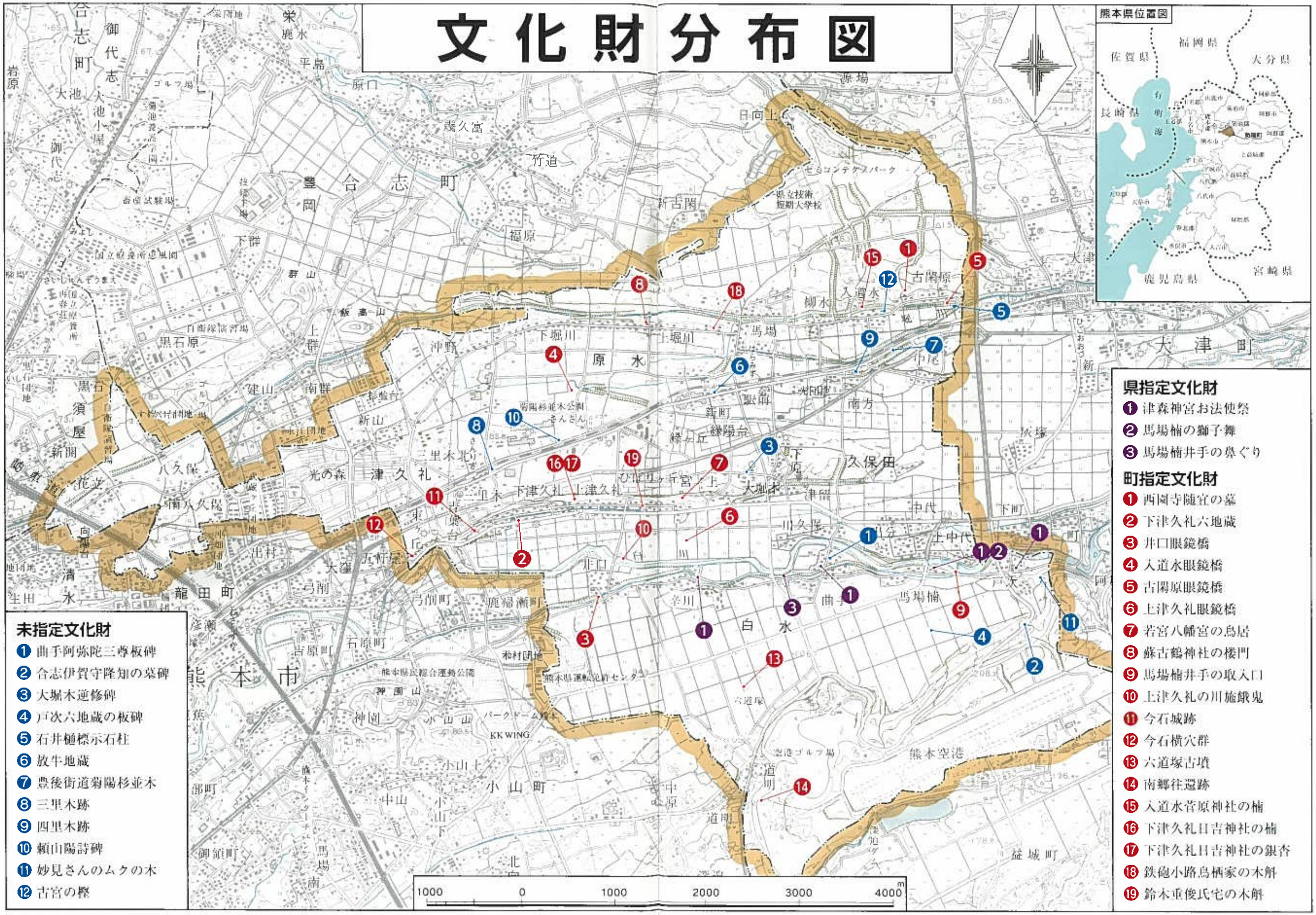
目　次

文化財分布図 ―― 4･5
西園寺随宜の墓 ―― 6
下津久礼六地蔵 ―― 7
井口眼鏡橋 ―― 7
入道水眼鏡橋 ―― 8
古閑原眼鏡橋 ―― 8
上津久礼眼鏡橋 ―― 9
若宮八幡宮の鳥居 ―― 9
蘇古鶴神社の楼門 ―― 10
馬場楠井手の取入口 ―― 10
津森神宮お法使祭 ―― 11
馬場楠の獅子舞 ―― 12
上津久礼の川施餓鬼 ―― 12
今石城跡 ―― 13
今石横穴群 ―― 13
馬場楠井手の鼻ぐり ―― 14･15
六道塚古墳 ―― 15
南郷往還跡 ―― 16
入道水菅原神社の楠 ―― 16
下津久礼日吉神社の楠 ―― 17
下津久礼日吉神社の銀杏 ―― 17
鉄砲小路烏栖家の木斛 ―― 18
鈴木重俊氏宅の木斛 ―― 18
曲手阿弥陀三尊板碑 ―― 19
合志伊賀守隆知の墓碑 ―― 19
大堀木逆修碑 ―― 20
戸次六地蔵の板碑 ―― 20
石井樋標示石柱 ―― 21
放牛地蔵 ―― 21
杉並木と里数木 ―― 22
頼山陽詩碑 ―― 22
妙見さんのムクの木 ―― 23
古宮の樫 ―― 23
掲載文化財一覧表 ―― 24･25
お願いとお知らせ ―― 25
遺跡分布図 ―― 26･27

凡　例

1. 本書は、菊陽町に所在する指定文化財及び一部の未指定文化財について収録し、概要を解説したものです。
2. 指定文化財は原則として国の指定区分(有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物)に準じて掲載しています。
3. 文化財の番号は、熊本県指定文化財を■色、菊陽町指定文化財を■色、未指定文化財を■色で示し、地図及び一覧表の番号と一致しています。
4. 本書の作成は、菊陽町文化財保護委員会の協力を得て、菊陽町教育委員会生涯学習課が執筆・編集を行いました。

文化財分布図



未指定文化財

1. 曲手阿弥陀三尊板碑
2. 合志伊賀守隆知の墓碑
3. 大堀木逆修碑
4. 戸次六地蔵の板碑
5. 石井樋標示石柱
6. 放牛地蔵
7. 豊後街道菊陽杉並木
8. 三里木跡
9. 四里木跡
10. 頼山陽詩碑
11. 妙見さんのムクの木
12. 古宮の樫

県指定文化財

1. 津森神宮お法使祭
2. 馬場楠の獅子舞
3. 馬場楠井手の鼻ぐり

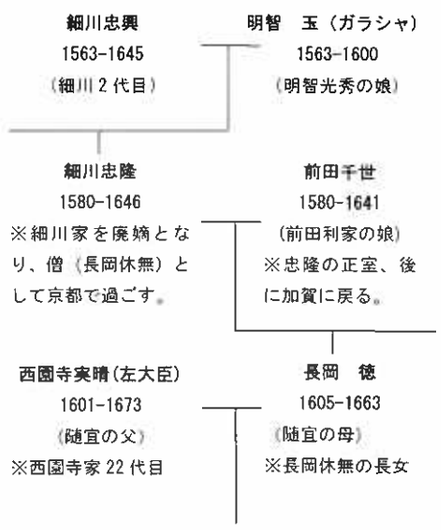
町指定文化財

1. 西園寺隨宜の墓
2. 下津久礼六地蔵
3. 井口眼鏡橋
4. 入道水眼鏡橋
5. 古閑原眼鏡橋
6. 上津久礼眼鏡橋
7. 若宮八幡宮の鳥居
8. 蘇古鶴神社の楼門
9. 馬場楠井手の取入口
10. 上津久礼の川施餓鬼
11. 今石城跡
12. 今石横穴群
13. 六道塚古墳
14. 南郷往還跡
15. 入道水菅原神社の楠
16. 下津久礼日吉神社の楠
17. 下津久礼日吉神社の銀杏
18. 鉄砲小路鳥栖家の木斛
19. 鈴木重俊氏宅の木斛

西園寺随宜の墓　昭和 54.2.23 指定

地図番号 1

西園寺随宜略系図



古閑原西端から北に農道を少しのぼった所に西園寺随宜を祀る西園神社があり、その境内中央部に、玉垣で囲まれた墓碑があります。この墓の主、西園寺随宜は、時の左大臣西園寺実晴の末子として京都に生まれましたが、生来、宮仕えを好まず、叔父にあたる長岡忠春（細川内膳家）の領分である入道永村の安福寺（阿弥陀堂）を仮の住居として、寛文５年（1665）に移り住みましたが、寛文 10 年（1670）８月 15 日、病にかかり静かに一生を終えました。なお、肥後国誌には、随宜の亡きあと、京都から迎えの使者が派遣され、一人娘の須也姫をはじめ、侍女たちを京都へ連れ帰ったと記されています。

《墓碑》　寛文十庚戌年
（正面）圓明院　月渓淨心大禪定門
八月十五日
（裏面）西園寺左大臣實晴男随宜之墓

下津久礼六地蔵　昭和 54.2.23 指定

地図番号 2

この六地蔵は、室町時代（1400 ～ 1500）の作と推定され、現在地の南方約 300 メートル、小字「鶴中」通称「六地蔵」の辻に建っていましたが、延宝６～７年（1678 ～ 1679）のころの再三にわたる水難のため、村移りと共に窪田八幡宮の南方 50 メートルの村道の辻に移設されました。さらに、昭和 46 年（1971）区公民館の新築移転に伴い現在地に移されました。

全高 2.5 メートル、宝珠（最上部分）・龍部（仏を６体刻んだ部分）は後年の作ですが、傘・中台・種身は当初からのものと考えられます。

※仏教で「六道」とは、地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天上道をいい、「六地蔵」は、この六道にいて衆生を救う六種類の地蔵菩薩の総称です。

井口眼鏡橋　昭和 55.2.26 指定

地図番号 3

この眼鏡橋は、馬場楠井手に架かる単一アーチ橋で、昭和初期までは重要な生活道でした。この橋の特徴は、輪石の接する部分に、すべて石楔が使用され、さらに二重輪石を有する点で県内でも極めて貴重な石橋の一つです。この橋も交通事情の変遷によって東側１メートルが拡幅工事され、輪石は漆喰仕上げになっています。この橋と同じ工法が用いられている眼鏡橋には、熊本市植木町豊岡にある豊岡橋（1802）、御船町木倉にある門前川橋（1808）があります。この２つの石橋の架橋は、肥後の石工集団のリーダーである仁平の弟子達の手によるものといわれ、井口眼鏡橋も同集団の手によるものと推定されます。

【橋の概要（単位：m）】
橋長：10.75 橋幅：3.00 高さ：2.65 輪石数：28 個　架橋年：不詳　石工等：不詳

蘇古鶴神社の楼門

昭和 60.5.15 指定　地図番号 8

鉄砲小路は、熊本藩主細川忠利公が、寛永 12 年(1635)頃に、いわゆる地筒の者(地鉄砲)を召し集め、鉄砲組を配置し軍用防備に備えさせたのが始まりです。蘇古鶴神社は、寛永 12 年(1635) 9 月、鉄砲小路の守護神として勧請され、明暦元年(1655) 12 月、新たに神殿を建立し遷宮されたのが現在の宮床です。祭神は、阿蘇一の宮・二の宮で菅原道真神を合祀しています。

この神社本殿前の参道上に、町内唯一の楼門があります。奥行き 3.06 メートル、間口 3.99 メートルで、銅板葺きの二層建築です。門内には「奇岩窓神」、「豊岩窓神」の異名同体の二神が祀られています。

馬場楠井手の取入口

平成 21.2.18 指定　地図番号 9

加藤清正築造と伝わる旧馬場楠堰(石堰:長さ約 113 メートル)は、昭和 28 年(1953)の大洪水で崩壊し、現在のコンクリート製の堰に造り替えられました。左岸に造られたこの馬場楠井手の取入口は、石造りの水門で三門から成り、内部の寸法は長さ約 5 メートル、幅約 4 メートル、高さ約 2 メートルです。部分的にコンクリートで補強されていますが、現在もその機能を果たし、平成 30 年 8 月 13 日に、歴史的価値のある農業水利施設として世界かんがい施設遺産(白川流域かんがい用水群の一部)として登録されました。

なお、馬場楠堰土地改良区に保管されている江戸時代の絵図の写しには「此石井樋　長七間三尺　横壱間　高サ六尺五寸　落戸三枚　長弐間半横樋ノ内壱丈三尺六寸」と記されています。

津森神宮お法使祭

平成 30.3.27 熊本県指定　地図番号 1

お法使祭は、毎年 10 月 30 日に行われる津森宮の祭りで、益城町、西原村、菊陽町の 12 地区を順次一年単位で回る津森神宮(益城町寺中鎮座)の付属神事の一つです。お法使の当番区では、それぞれ「御仮屋」を建て、一年間御神体を安置し、翌年、次の当番区へ「受け、渡し」が行われます。

この祭りの特徴は、御神体を神輿に安置し、受け渡し場所へ運ぶ途中に、道や田畑に投げ落とす荒神輿で大変珍しい祭りです。

※オホシサンは、天宇受売命(天の岩戸にお隠れになった天照大神にお出まし頂くために岩戸の前で踊られた女の神様)といわれています。また、猿田彦命(みちしるべの神)という説もあります。

お法使祭り 12 地区

益城町(5 地区):平田上・平田下・田原・小谷・杉堂

西原村(3 地区):瓜生迫・(秋田・上林)・(星田・門出・田中)

菊陽町(4 地区):戸次・馬場楠・曲手・辛用

神輿を安置する御仮屋

受け渡し神事

馬場楠の獅子舞

［津森神宮お法使祭の構成要素］

地図番号 2

お法使祭の神事の際に舞われるのが、「馬場楠の獅子舞」です。戦時中から戦後の混乱期に一時中断しましたが、有志各位の尽力によって復活し、現在に至っています。

この獅子舞は重厚な獅子頭をもち、獅子楽に合わせて前後２人にて舞う勇壮な舞です。獅子のほかに、玉取り、三味線、笛、太鼓等総勢30名がこれにあたります。（舞妓７～８名、玉取り２名、三味線７～８名、笛７～８名、太鼓１名）「獅子楽」としては、道楽・十善寺楽・松囃子・田島楽・竹囃子の５つの舞からなり、余興として玉取りが行われています。

上津久礼川施餓鬼

昭和 54.2.23 指定

地図番号 10

上津久礼地区は、もともと白川中流域右岸に沿って開かれた豊かな水田地帯として早くから栄えてきた所です。また、その反面、再三にわたる水難と人畜の悪疫に悩まされ、延宝６～７年（1678～1679）ごろ、藩命により村をあげて現在地に移り住みました。その後も人畜の無病息災と追善供養を忘れず、今日まで受け継がれてきたのが「川施餓鬼」です。

この行事は、毎年８月19日に津白橋ぎわの祖先の碑前で慰霊の読経が行われ、その後、供物が「川の餓鬼」に施されて午前の儀式が終わります。午後からは、「施餓鬼船」が各組（区を６組に分ける）ごとに工夫し制作されます。これは最大３メートルもあり、麦わらで作られた船（馬をかたどったもの）に提灯と供物を飾ったもので、以前は川に流していましたが、現在は環境に配慮しグラウンドに並べ出来栄えを競います。

今石城跡

昭和 54.2.23 指定

地図番号 11

この今石城は、当時この地域を支配していた合志氏の竹迫城（合志市上ノ庄）の南方防衛の山城の一つです。玉岡城（現大津町）や須屋城（現合志市）等と共に薩摩（鹿児島）の島津氏からの侵攻に備えた山城で、位置は下津久礼の白川右岸断崖上の今石神社とその後方台地と推定されています。

古文書によると、天正13年（1585）９月３日、島津氏は、大軍を率いて肥後に侵攻します。敵の大将・川上左京亮は、益城に本陣を置き、玉岡・今石城を攻めます。それに対して今石城主石原狩野介を総大将とした合志軍は、梅ノ木口の砦で一進一退の激戦を繰り返しましたが、今石城は落城したと記されています。

なお、今石神社は養老２年（718）健磐龍命を勧請し創建された町内でも古い神社です。

今石横穴群

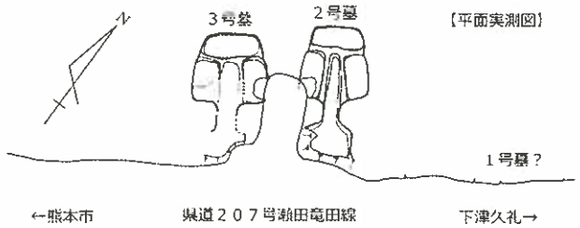
昭和 54.2.23 指定

地図番号 12

この横穴群は、白川右岸沿いの熊本市との堺に位置し、この地域の支配階級一族の墓として７世紀の中期から後期にかけて造られたと推定されています。

明治17年（1884）県道瀬田・竜田線の開通によって発見され、当時は９基が確認されたといわれていますが、現在は２号墓と３号墓を残すのみで、どちらも単室・複床式横穴墓です。

なお、県道開通時に２号墓の羨門部が削り取られ、第二次世界大戦時における防空壕の掘削で、それぞれの玄室（遺体安置室）の一部が欠損しています。

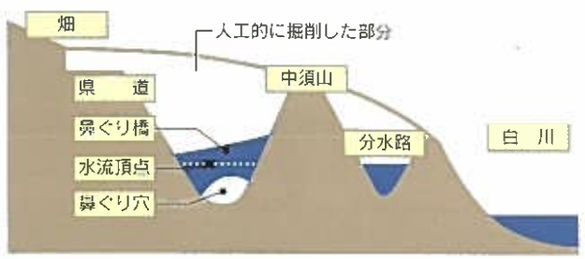


馬場楠井手の鼻ぐり

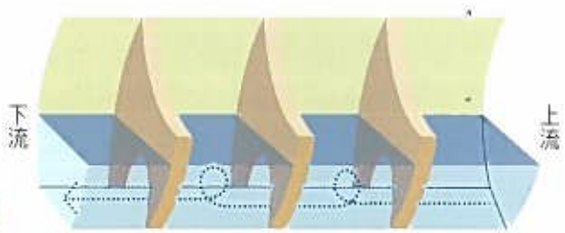
平成 31.3.26 熊本県指定　地図番号 3

馬場楠井手は、白川左岸中流域の畑地を水田化するために馬場楠に堰を設け、左岸の取入口より引水し菊陽町の曲手・辛川を経て、熊本市の新南部を過ぎて白川に落水している約 12km の用水路です。築造は 16 世紀後半に藩主となった加藤清正によると伝えられ、古文書には、この井手の完成で税収が 3 倍になったと記録されています。

特に、この井手が知られるようになったのは、曲手～辛川区間の約 390 メートルに、「鼻ぐり」と呼ばれる特殊な技法が用いられているからです。阿蘇に源を発する白川水系は、火山灰土壌のためヨナ（土砂等）の堆積がひどく、井手（用水路）の管理が悩みの種でした。この馬場楠井手の曲手～辛川区間は岩盤を掘削すれば、両岸は切り立ち地上から井手底までの深さは約 15 メートルにもおよび、人力で井手底の土砂等を排出することは極めて困難と思われました。しかし、その課題を解決したものが水力を利用して土砂を次々に下流へ排出させる「鼻ぐり」という独特の構造物です。



断面図



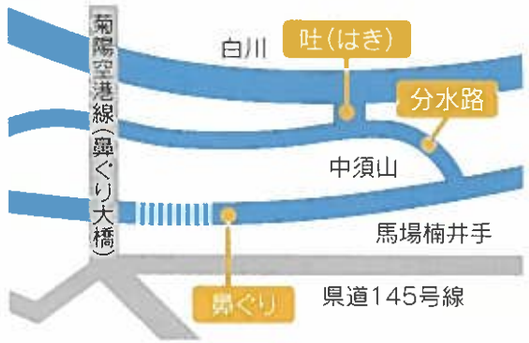
構造概要図

構造の概要は、約 2 ～ 5 メートル間隔に幅約 1 メートル、高さ約 4 メートルの岩盤を壁のように残し、その下辺にカマボコ形の直径約 2 メートルの水流穴（鼻ぐり穴）をくり貫いたものです。この水流穴が、牛の鼻輪を通す穴（鼻ぐり）に似ていることから、この名が付いたと伝えられています。

井手底の様子

さらに、この区間は水量調節機能も備えており、増水時には白川左岸の分水路へ増水を導き、分水路に設けた「吐」とよばれる水量調整遺構で白川へ落とす技法が用いられています。

この鼻ぐり遺構は、全国無類といわれ、築造した当時は、約 80 基あり、江戸末期に水利を知らない役人により約 50 基が破壊されたと古文書に記されています。現在は 24 基を残すのみとなっていますが、それでもなお現役として昔と変わらぬ機能を果たし、約 1 7 6 ヘクタールの田畑を潤しています。



位置図

六道塚古墳

昭和 54.2.23 指定　地図番号 13

この古墳の概要は、直径約 7 メートル、高さ約 3 メートルで、その形状、位置、地名などからみて二段築成の円墳と推定されています。この塚の一帯は、古くは唐川（辛川）原とよばれ、延元元年＝北朝建武 3 年（1336）8 月 18 日、南朝方と北朝方が激戦をくりかえした古戦場としても知られています。

古墳上には楠の大樹がそびえ、その根元には「神石」が祀られています。この神石は、「さくらぎ神社」と称され、益城町寺中にある津森神社の末社と伝えられています。

南郷往還跡（なんごうおうかんあと）

昭和 54.2.23 指定　地図番号 14

肥後の国府は9世紀～14世紀末まで、現熊本市西区二本木にあり、政治・経済・文化の中心となっていました。この国府と阿蘇南郷とを結ぶ重要な道路が南郷往還で、熊本市の長六橋を起点として、大江、保田窪、長嶺を経てこの菊陽町の道明に至り、西原村万徳（まんとく）、俵山を越えて阿蘇南郷谷、さらには色見（しきみ）（阿蘇郡高森町）を経て、豊後竹田（大分県南西部）へ通じていました。

昭和46年（1971）熊本空港開港時に約3kmにわたり滑走路に収容され、現在は道明から高遊原台地に至る区間に約180mの石畳が残るのみです。

入道水菅原神社の楠（にゅうどうみずすがわらじんじゃ　くす）

昭和 55.7.1 指定　地図番号 15

この楠は、入道水菅原神社の境内にあります。地上2.8mで三幹に分かれ、さらに地上約8mで数本に分岐していますが、樹勢は極めて旺盛で町内随一の大樹です。南側の根元に空洞があり、西側には「明治100年記念木」熊本緑化推進委員会（昭和43年12月建立）の標柱が立っています。

（推定樹齢450年）

幹まわり 7.80m

樹高 25.00m

枝幅 26.30m

下津久礼日吉神社の楠（しもつくれひよしじんじゃ　くす）

昭和 55.7.1 指定　地図番号 16

この楠は、下津久礼の東端、日吉神社の本殿前にあります。地上約8mで分岐するまで無傷で、樹勢は極めて旺盛です。

楠は、春に黄緑色の小花をつけ、枝や葉に樟脳の薫りがするクスノキ科の常緑高木です。神木として植えつけられたことにより、神社や仏閣で多く見られ、熊本県の県木でもあります。

（推定樹齢300年以上）

幹まわり 5.50m

樹高 30.00m

枝幅 26.00 メートル

下津久礼日吉神社の銀杏（しもつくれひよしじんじゃ　いちょう）

昭和 55.7.1 指定　地図番号 17

この銀杏は、下津久礼の東端、日吉神社の正面石段中央の東隅にあります。なお、地上1.8mは約半分が神社階段に埋もれています。

イチョウは、落葉高木で神社や寺院に多くみられます。樹皮は灰褐色で浅く裂けており、葉は扇形で先端中央部は浅く又は切れ込み、秋は黄色になります。雌雄異株で、材は碁盤・将棋盤・彫刻用に用いられ、種子の銀杏は食用に重宝されています。

（推定樹齢300年以上）

幹まわり 4.60m

樹高 30.00m

枝幅 15.00m

鉄砲小路鳥栖家の木斛（てっぽうこうじとすけもっこく）

昭和 55.7.1 指定　地図番号 18

木斛は、ツバキ科の常緑高木で暖地に自生し、葉は倒卵形で光沢があり、夏には白い小花をつけ、果実は紅く熟します。木材は櫛や細工用に利用され、樹皮は染料に用いられます。木質は非常に堅く、育ちにくい樹木です。

この木斛は、鉄砲小路の東端にあります。細川忠利公が鳥栖家にお立寄りの時、この地に木斛が存在していたことが伝えられています。

（推定樹齢 350 年以上）
幹まわり 2.60m
樹高 15.00m
枝幅 8.50m

鈴木重俊氏宅の木斛（すずきしげとしもっこく）

昭和 55.7.1 指定　地図番号 19

この木斛は、上津久礼集落のほぼ中央にあります。上津久礼集落は、延宝 6 ～ 7 年（1678 ～ 1679）頃、度重なる水害により白川沿いから移転した記録が残っており、この木斛も村移りと共に植えられたと推定されます。

（推定樹齢 300 年以上）
幹まわり 2.30m
樹高 17.00m
枝幅 14.0m

曲手阿弥陀三尊板碑（まがてあみださんぞんいたび）

未指定文化財　地図番号 1

この板碑は上部中央に阿弥陀如来、右上部に観音菩薩、左上部に勢至菩薩が線刻され、その下部には「逆修（ぎゃくしゅう）のために阿弥陀三尊を立造奉る。」とあり「道順禅門」「妙仲禅尼」の二人（夫婦）により天文 23 年（1554）8 月の良き日（秋の彼岸）供養の一環として建立した。その功徳は「七分全得（しちぶぜんとく）」であり、阿弥陀三尊へ「敬白（うやまいもうす）」とあります。施主とみられる人物については、16 世紀中頃の曲手の在地土豪と考えられます。なお、逆修とは、生前に自分の死後を供養することです。

合志伊賀の守隆知の墓碑（こうしいがかみたかとものぼひ）

未指定文化財　地図番号 2

新空港大橋をわたり高遊原（たかゆうばる）台地にのぼる途中の右手に小高い丘があり、この丘の上に 440 年近くにわたり静かに眠る戦国武将合志伊賀守隆知の墓碑があります。高さ約 1 メートル、幅約 60 センチメートルの墓碑には、上部の円の中に梵字を表し、右に「合志伊賀守一龍居士」、左に「天正 13 年 5 月 1 日」と刻まれています。

隆知は天正 13 年（1585）、島津義久が大軍を率いて肥後に侵攻してきた時、兄の志摩守隆光と共に中島の副将として防備にあたりました。合志軍勢は、高遊原台地（空港一帯）で緒戦を展開しますが、それに先立ち、子知二郎に、「自館を立退き、小国満願寺叔父様の所に行き、吉報を待つ可し…」と書状を送り、その後 5 月 1 日壮烈な戦いの中、この地で亡くなりました。享年 34 でした。

大堀木逆修碑（おぼるけぎゃくしゅうひ）　未指定文化財

地図番号 3

この逆修碑は、安山岩を三角形にしたもので町民グラウンドの東南の一角に建っていますが、かつては畑の中の塚上に建っていました。昭和40年頃までは、上位に3つの円、その下に雲形の線、さらにその下に上下二段の14行の罫区を刻んでいるのが確認できましたが、現在はその円や罫区さえも確認できないほど摩滅しています。この逆修碑と同形式のものが、菊池市濁水町に2基あり、どちらも大永（1521～1528）のものであることから、この碑も同年代のものと推定されます。

戸次六地蔵の板碑（とつぎろくじぞういたび）　未指定文化財

地図番号 4

この板碑は圃場整備後に畑から掘り起こされたもので、それ以前の正確な場所は不明です。型式から室町時代のものと推定され、中心に阿弥陀如来が線刻されています。また、この板碑の存在から、当時この一帯に集落があり有力者がいたと推定できます。なお、それを示す土器などの遺物も多数発見されています。なお、六地蔵とはこの地の小字名で、この板碑は「ろくんぞさん」とも呼ばれています。

石井樋表示石柱（いしいびひょうじせきちゅう）　未指定文化財

地図番号 5

大津町から菊陽町の原水にかけて広がる水田地域は、大津原と呼ばれた荒野同然の地でした。それが、今日に見る水稲栽培の美田に変わったのは、瀬田上井手の開削による恩恵です。そして、その井手沿いには、石井樋（取水量調整機能装置）が設けられました。その上井手の水は、かんがい面積に按分して算出し、水量により取入口の断面積に応じた、寸法（高さ・幅）を決め、これに従い方形の石井樋を作り埋め込んでありました。現在はこの石井樋は姿を消し、その真上に建ててあった石柱もほとんど残っていませんが、当時の農業水利の知識と困難性を物語っています。

放牛地蔵（ほうぎゅうじぞう）　未指定文化財

地図番号 6

原水新町の聞光寺（もんこうじ）入口の東脇に、観音菩薩と地蔵菩薩を収めた堂があります。この地蔵尊は、熊本市を中心に玉名、菊池、上益城等に建立されたといわれる107体の放牛地蔵のうち66番目のもので、享保14年（1729）9月17日の建立です。

この放牛地蔵については、江戸時代の熊本城下で不運にも無礼討ちとなった父を弔うために、その息子が出家して「放牛」と名乗り30年余りの修行の後に100体の石仏を建立したという伝承が残っています。

杉並木と里数木　未指定文化財

地図番号 7 8 9

天正16年(1588)に入国した加藤清正は、豊後街道の大規模な整備をしています。江戸時代の街道は凹型で人馬の通る部分が周囲より低く、両側が土手になっていました。特に大津街道(熊本～二重峠)は清正により、道幅は約30メートルに拡幅され、熊本市立田口から大津町の方里ヶ谷まで(大津の街並み・桜馬場を除く)の約20キロメートルの長さにわたり両側の土手に杉が植えられました。現在は、補植された杉が部分的に残るのみです。

なお、各地の街道には1里(約3.93キロメートル)ごとに街道の両側に塚が築かれ、それで距離を表示しました。その塚に目印として植えられたエノキなどの樹木を里数木といいます。熊本の里数木の起点は熊本城清爽園内の「札の辻」で、町内の街道区間にある「三里木」は、その名を地名に残しています。また、「四里木」は、原水の南方にありましたが、現在はその痕跡もなく四里木跡の標柱が立っているのみです。

頼山陽詩碑　未指定文化財

地図番号 10

大道平々砥不如　だいどうへいへいともしかず
熊城東去総青蕪　ゆうじょうひがしにさればすべてせいぶ
老杉夾路無他樹　ろうさんみちをはさんでたじゅなし
欠所時々見阿蘇　かくるところときどきあそをみる

頼山陽は、安永9年(1780)生まれの安芸の国(広島)の人で、父春水(大阪で塾をもっていた著名な学者)の感化を受けて育った幕末の学者です。この頼山陽が文政元年(1818)肥後を訪れ10月豊後竹田へ向かう途中、大津街道の杉並木の景観に感動して詠んだものが、上の詩です。

この詩碑は昭和9年(1934) 10月、杉並木保存会が結成されたのを記念して、街道沿いに建てられましたが、平成27年(2015) 3月に杉並木公園南門前に移設されました。

妙見さんのムクの木　ふるさと熊本の樹木　昭和56.3.12登録

地図番号 11

戸次区の東端に地元では妙見さんと呼ばれている見屋水神社の祠があり、この裏手に神木のムクの木があります。神木の根元から流れる湧水は涸れたことがなく、昔は日照りが続くと神社にこもり雨乞いをしていたと伝えられています。

ムクはニレ科の落葉高木で、幹は直立して多く分岐し、樹皮は淡灰色で、後に割れて短冊状の薄片となって落ちます。

(推定樹齢400年)
幹まわり4.80m 樹高22.00m 枝幅13.00m

古宮の樫　ふるさと熊本の樹木　平成2.2.14登録

地図番号 12

入道水区と古閑原区の境付近に、現在ゲートボール場になっている所があります。この場所は、「古宮跡」と呼ばれ1649～1794年まで火事で移転していた入道水菅原神社があった所です。神社は、再度火事で焼失したため、現在地(本来の地)に移転しています。

アラカシ(粗樫)はブナ科の常緑高木で、樹皮は灰黒緑色で小さい割れ目ができます。葉は長楕円形で上半部に鋭鋸歯があります。堅果は秋に熟し、先端がとがり、卵円形、褐色で2センチメートルくらいです。

(推定樹齢200年以上)
幹まわり3.10m 樹高13.00m 枝幅9.00m

県指定文化財一覧

No	名　称	種　別	所在地	指定年月日	時代
1	ツモリジングウオホシマツリ 津森神宮お法使祭	無形民俗文化財	戸次、馬場楠、曲手、辛川	平成30.3.27	近世
2	ババグスノシシマイ 馬場楠の獅子舞（お法使祭の構成要素）	無形民俗文化財	馬場楠	平成30.3.27	近世
3	ババグスイデノハナグリ 馬場楠井手の鼻ぐり	史　跡	辛川～曲手	平成31.3.26	近世

町指定文化財一覧

No	名　称	種　別	所在地	指定年月日	時代
1	リイオンジズイキノハカ 西園寺随宜之の墓	建造物	古閑原	昭和 54.2.23	近世
2	シモツクレロクジゾウ 下津久礼六地蔵	建造物	下津久礼	昭和 54.2.23	中世
3	イグチメガネバシ 井口眼鏡橋	建造物	井　口	昭和 55.2.26	近世
4	ニュウドウミズメガネバシ 入道水眼鏡橋	建造物	杉並木公園	昭和 55.2.26	近世
5	コガバルメガネバシ 古閑原眼鏡橋	建造物	古閑原	昭和 55.2.26	近世
6	カミツクレメガネバシ 上津久礼眼鏡橋	建造物	上津久礼	昭和 55.2.26	近世
7	ワカミヤハチマングウノトリイ 若宮八幡宮の鳥居	建造物	上津久礼	昭和 60.5.15	近世
8	ソコヅルジンジャノロウモン 蘇古鶴神社の楼門	建造物	鉄砲小路	昭和 60.5.15	近世
9	ババグスイデノトリイレグチ 馬場楠井手の取入口	建造物	馬場楠	平成 21.2.18	近世
10	カミツクレノカワセガキ 上津久礼の川施餓鬼	無形民俗文化財	上津久礼	昭和 54.2.23	近世
11	イマイシジョウアト 今石城跡	史　跡	下津久礼	昭和 54.2.23	中世
12	イマイシヨコアナグン 今石横穴群	史　跡	下津久礼	昭和 54.2.23	古代
13	ロクドウヅカコフン 六道塚古墳	史　跡	辛　川	昭和 54.2.23	古代
14	ナンゴウオウカンアト 南郷往還跡	史　跡	道　明	昭和 54.2.23	中世
15	ニュウドウミズスガワラジンジャノクス 入道水菅原神社の楠	天然記念物	入道水	昭和 55.7.1	近世
16	シモツクレヒヨシジンジャノクス 下津久礼日吉神社の楠	天然記念物	下津久礼	昭和 55.7.1	近世
17	シモツクレヒヨシジンジャノイチョウ 下津久礼日吉神社の銀杏	天然記念物	下津久礼	昭和 55.7.1	近世
18	テッポウコウジトスケノモッコク 鉄砲小路鳥栖家の木斛	天然記念物	鉄砲小路	昭和 55.7.1	近世
19	スズキシゲトシシタクノモッコク 鈴木重俊氏宅の木斛	天然記念物	上津久礼	昭和 55.7.1	近世

未指定文化財一覧

No	名　称	種　別	所在地	時代
1	マガテアミダサンゾンイタビ 曲手阿弥陀三尊板碑	建造物	曲　手	中世
2	コウシイガノカミタカトモノボヒ 合志伊賀守隆知の墓碑	建造物	戸　次	中世
3	オボルケギャクシュウヒ 大堀木逆修碑	建造物	町民グラウンド内	中世
4	トツギロクジゾウノイタビ 戸次六地蔵の板碑	建造物	戸　次	中世
5	イシイビヒョウジセキチュウ 石井樋表示石柱	建造物	古閑原	近世
6	ホウギュウジゾウ 放牛地蔵	建造物	新　町	近世
7	ブンゴガイドウキクヨウスギナミキ 豊後街道菊陽杉並木	史　跡	県道 337 号線沿い	近世
8	サンリギアト 三里木跡	史　跡	三里木	近世
9	ヨリギアト 四里木跡	史　跡	南　方	近世
10	ライサンヨウシヒ 頼山陽詩碑	建造物	杉並木公園南門前	近代
11	ミョウケンサンノムクノキ 妙見さんのムクの木	天然記念物	戸　次	近世
12	フルミヤノカシ 古宮の樫	天然記念物	入道水	近世

【文化財の保存についてお願いとお知らせ】

この「菊陽の文化財」には、指定文化財と一部の未指定文化財を掲載していますが、それ以外にも多くの未指定文化財が存在しており、郷土の歴史を知る貴重な資料です。
私たちはこれらの文化財を守り、保存して後世の人々に残さなければなりません。

この冊子に掲載した文化財や遺跡の近くで工事や開発をする場合は、必ず事前に町教育委員会へ連絡してください。

また、その他の場所において土器や石器と思われるものを発見した場合も同様に連絡してください。

なお、下記の文化財や町の歴史については詳細が掲載された冊子が発行されていますので、お気軽にお問い合わせください。

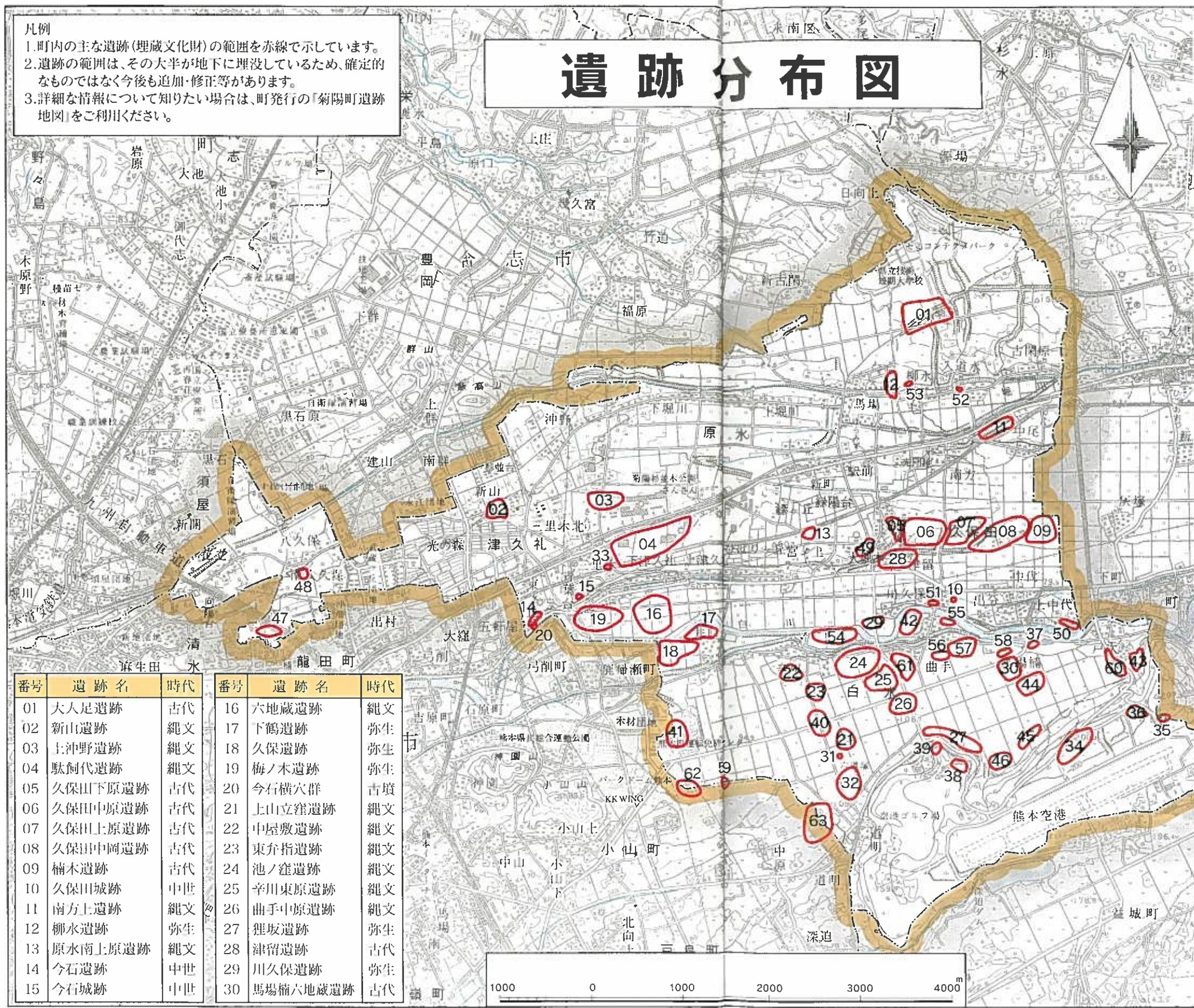
- ●文化、歴史全般　（菊陽町史）
- ●埋蔵文化財、遺跡（遺跡地図・発掘調査報告書）
- ●古文書、古記録　（町史研究資料集第1～4集、鉄砲小路古文書解読冊子）
- ●民話、民間伝承、方言（町史研究資料集第5集）
- ●神社仏閣、石造物　（町史研究資料集第6集）

【問い合わせ先】

菊陽町教育委員会生涯学習課 …… TEL 232-4917

遺跡分布図

凡例
1.町内の主な遺跡(埋蔵文化財)の範囲を赤線で示しています。
2.遺跡の範囲は、その大半が地下に埋没しているため、確定的なものではなく今後も追加・修正等があります。
3.詳細な情報について知りたい場合は、町発行の『菊陽町遺跡地図』をご利用ください。



番号	遺跡名	時代
01	大人足遺跡	古代
02	新山遺跡	縄文
03	上沖野遺跡	縄文
04	駄飼代遺跡	縄文
05	久保田下原遺跡	古代
06	久保田中原遺跡	古代
07	久保田上原遺跡	古代
08	久保田中岡遺跡	古代
09	楠木遺跡	古代
10	久保田城跡	中世
11	南方上遺跡	縄文
12	柳水遺跡	弥生
13	原水南上原遺跡	縄文
14	今石遺跡	中世
15	今石城跡	中世

番号	遺跡名	時代
16	六地蔵遺跡	縄文
17	下鶴遺跡	弥生
18	久保遺跡	弥生
19	梅ノ木遺跡	弥生
20	今石横穴群	古墳
21	上山立窪遺跡	縄文
22	中屋敷遺跡	縄文
23	東弁指遺跡	縄文
24	池ノ窪遺跡	縄文
25	辛川東原遺跡	縄文
26	曲手中原遺跡	縄文
27	狸坂遺跡	弥生
28	津留遺跡	古代
29	川久保遺跡	弥生
30	馬場楠六地蔵遺跡	古代

番号	遺跡名	時代
31	六道塚古墳	古墳
32	塚原遺跡	縄文
33	広街道遺跡	縄文
34	豊秋遺跡	縄文
35	戸次中尾遺跡	縄文
36	戸次中原遺跡	縄文
37	一丁畑遺跡	古代
38	山之上遺跡	弥生
39	部田遺跡	弥生
40	上中原遺跡	縄文
41	下石ヶ迫遺跡	旧石器
42	西鶴遺跡	弥生
43	年ノ神遺跡	縄文
44	水溜遺跡	縄文
45	沖土遺跡	縄文
46	金福遺跡	弥生
47	杉ノ本遺跡	縄文
48	南八久保遺跡	縄文
49	大堀木遺跡	古代
50	役給遺跡	古代
51	川久保屋敷跡	中世
52	安福寺跡	近世
53	楊水寺跡	近世
54	妙見遺跡	弥生
55	居屋敷遺跡	弥生
56	八反畑遺跡	縄文
57	森ノ上遺跡	中世
58	屋敷遺跡	古代
59	下乙若遺跡	縄文
60	三反畑遺跡	縄文
61	曲手西原遺跡	縄文
62	御船塚東遺跡	縄文
63	中原道明遺跡	縄文

菊陽の文化財

令和２年３月31日　改訂第６版

編集発行／菊陽町教育委員会

熊本県菊池郡菊陽町久保田2598番地

TEL 096-232-4917

印刷／プランニング工房 komaki